

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	宮前区第3グループ(蔵敷・菅生)	評価対象年度	平成24年度
事業者名	・事業者名 特定非営利活動法人あかい屋根 ・代表者名 理事長 丸山 幸一 ・住所 川崎市宮前区菅生ヶ丘13-2	評価者	こども支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	宮前区こども支援室

2. 事業実績

利用実績	1 蔵敷こども文化センター ①年間延べ利用者数 21,376人 ②年間延べ利用団体数 392団体 2 菅生小学校わくわくプラザ ①登録者数 238人 ②年間延べ利用者数 9,982人 3 犬蔵小学校わくわくプラザ ①登録者数 422人 ②年間延べ利用者数 18,223人 1 菅生こども文化センター ①年間延べ利用者数 29,384人 ②年間延べ利用団体数 586団体 2 稗原小学校わくわくプラザ ①登録者数 294人 ②年間延べ利用者数 13,361人
収支実績	単位:円 1 収入 指定管理料 75,903,290 2 支出 人件費 65,513,339 事業費 6,269,568 事務経費 4,325,440 その他経費 合計 76,108,347 3 差引 -205,057
サービス向上の取組	常に問題意識を持ち、子どもの意見を尊重しながら、利用者の利便性・安全性向上に取り組んでいる。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	5	10
		事業計画に基づき、こども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		こども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
(評価の理由) 蔵敷こども文化センターは、運営協議会事業として以前から実施している行事を平成24年度は子ども主体へと変化させた。さんままつりは、ただ焼いたさんまを食べるだけであったが、子どもたちの発想からハロウィンパーティを取り入れた。また、蔵敷パーティでは、おにぎりの巨大アートを行うなど大人が支援する形で実施した。菅生こども文化センターは、子どもの遊び場として様々な事業を工夫し展開している。また、生田及び百合丘高校が至近距離にあることからダンス部の活動の場となるなど幅広く交流している。さらに、蔵敷及び菅生こども文化センターそれぞれの特性や課題を検討するプロジェクトチームを結成するなど非常に意欲的で成果を出している。こども文化センターの利用者は昨年と比較して15.4%増加した。					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続 効率的・効果的な支出	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
		計画に基づき適切な支出をしているか	5	3	3
		効率的な執行等、経費削減に具体的に取組んでいるか			
		サービスの水準を確保しているか			
支出に見合う効果が得られているか					
(評価の理由) NPOの会計ソフトを使用し、税理士や社労士が確認するなど、会計処理及び金銭管理を適切に行っている。					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	3	3
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	4	4
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	こども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	3	6
	利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	4	8
<p>(評価の理由) 毎月のたより・季刊誌・ホームページを作成し、幼児利用及び夜間利用を積極的に呼びかけるなど着実に広報活動をしている。特別な支援を必要とする児童については、学校・児童相談所など関係機関と密接に連携し、職員が1対1で対応するなど積極的に取り組んでいる。意見箱の設置、こども文化センター運営協議会・子ども運営会議・保護者懇談会の定期的開催など、利用者の意見や要望を取り入れながら事業や行事を実施している。施設の特性や地域性を十分理解して、子どもの意見を非常に尊重しながら幼児から大人まで幅広く配慮しており、利用者全てが使用しやすい施設である。</p>					
組織管理体制	適正な人員配置	児童福祉施設最低基準第38条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		こども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どおり人員を配置しているか			
		川崎市公契約条例を遵守しているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	3	6
個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3	
<p>(評価の理由) 仕様書どおり利用者増加や緊急時に柔軟な対応ができる人員を確保している。読み聞かせ・障害について・集団遊び・野外料理・救命救急・中高生対応など幅広い研修を行っている。個人情報漏洩等の事実はない。</p>					
適正な業務実施	利用者の安全確保	安全な利用に支障を来たすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
		利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応をしているか			
	防犯対策及び災害時の対応	感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか	5	3	3
		施設の防犯のための工夫をしているか			
		災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか			
<p>(評価の理由) 階段手摺・トイレ・消防設備などを修繕し、施設整備を適切に実施している。当法人のマニュアルに従い、安全管理・事故防止・防災点検及び訓練・衛生管理・感染症防止を行い、始業時及び終業時点検に力点を置くなど利用者の安全を確保している。また、利用者にロッカー使用を呼びかけるなど防犯対策を講じた。</p>					

4. 総合評価

評価点合計	67	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

仕様書どおり着実に施設運営を行いながら、子どもの立場になって、柔軟な発想で地域に根ざした活動を実施している。蔵敷及び菅生こども文化センターの特性や課題を的確に捉え、プロジェクトチームを結成するなど業務改善に取り組んでいる。また、「全ての利用者をやさしく迎え入れ、楽しく帰す」を合言葉に、様々な利用促進活動を行い、その結果として、こども文化センターの利用者が昨年と比較して15.4%増加したことは高く評価できる。

特別な支援を必要とする児童に対しては、職員一丸となって適切な対応をしている。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後とも、地域に立脚し地域課題に取り組み、子どもに寄り添う事業を行うことを期待する。